

# 和＝寂の然の間

手法

漉き間（すきま）

デザインコンセプト

「漉き間」を利用した設計により、手入れの行き届いていない空地に厠を設け、自然が入り込む空間を創出する。

この設計では、画一化された厠の空間を、和紙の繊維の重なりを参考に木材を連続させることで、花鳥風月と結びつく日本の厠を体感できる場を目指す。

この空間は、青葉の勾や苔の勾を透過し、清楚な木目に囲まれて、蚊の呻りさえ耳につくような静かさを提供する。また、虫の音によく、鳥の音によく、月夜にまたふさわしく、四季折々の物のあわれを味わうのに適した場所である。

